

海と社に育まれる
楽しい
しおがま

第6次塩竈市
長期総合計画

I 後期基本計画の背景

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 計画策定の目的と位置付け | 003 |
| 2. 計画の推進体制 | 006 |

II 後期基本計画の策定にあたって

- | | |
|----------------|-----|
| 1. 塩竈市の人口 | 009 |
| 2. 前期基本計画の振り返り | 010 |
| 3. 主な時代の潮流 | 013 |

III 後期基本計画

1. まちづくりの目標と方向性に基づく施策

- | | |
|---|-----|
| 第1章 子どもたちの笑い声があふれるまち（子ども） | 017 |
| 第2章 みんなが生き生きしているまち（福祉） | 024 |
| 第3章 快適に住み続けられるまち（生活） | 031 |
| 第4章 活気があり、誇りをもって働いている人が
たくさんいるまち（産業） | 038 |
| 第5章 何度でも訪れたいまち（交流） | 045 |
| 第6章 日常に彩りがあるまち（文化） | 051 |
| 第7章 みんなが主役になれるまち（協働） | 058 |
| 第8章 自然と調和した和やかな暮らしと癒しが
あるしま（浦戸諸島） | 065 |

I 後期基本計画の背景

1. 計画策定の目的と位置付け
2. 計画の推進体制

01

計画の目的と位置付け

(1) 後期基本計画の趣旨

本市では、令和4年度から令和13年度までを計画期間とする「第6次塩竈市長期総合計画」を策定し、目指す都市像「海と社に育まれる楽しい塩竈」の実現に向けて、令和4年度から令和8年度までを計画期間とする「前期基本計画」に基づき、各種の施策や事業を実施してきました。

前期基本計画の期間中には、少子高齢化の進行に加え、新型コロナウイルス感染症などの新たな危機の顕在、経済・社会のグローバル化や技術革新の急速な進展など、これまでの想定を上回る社会情勢の変化がありました。

今後も複雑化、多様化する地域課題に迅速かつ効果的に対応し、「未来の塩竈の姿」を共に描き、持続可能なまちを創り上げていくことを目指し、「後期基本計画」を策定するものです。

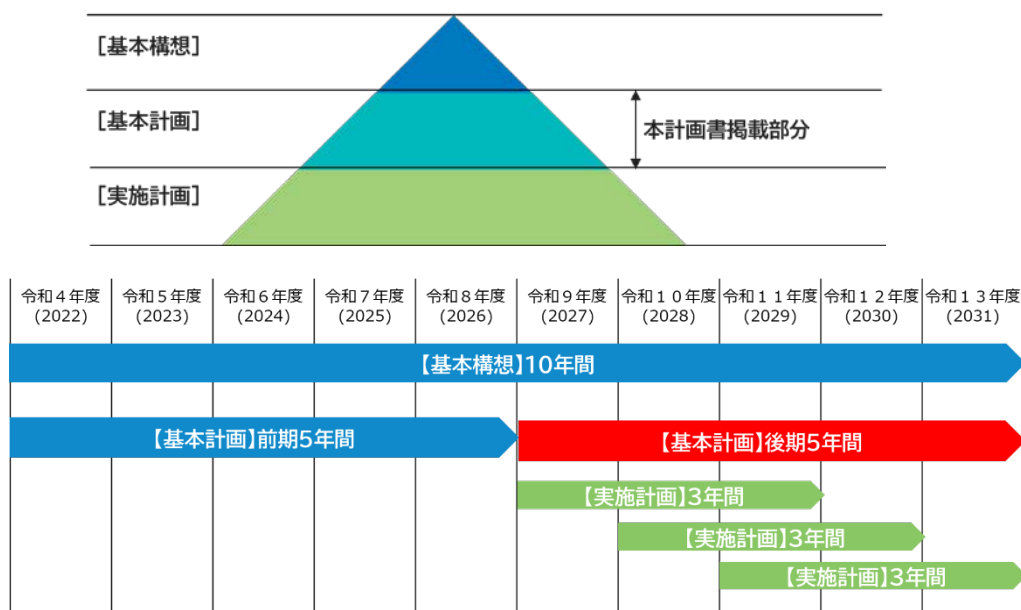
後期基本計画の計画期間は、令和9年度を初年度として、令和13年度を目標年度とします。

(2) 計画の役割と構成

本計画では、本市の目指す都市像と、それを実現するための基本的施策を総合的かつ体系的に示しています。今後10年間の市政運営の指針となるものであり、行政計画における最上位の計画となります。

同時に、本計画は、将来のまちづくりの方向性を示すものであり、市はもとより市民・事業者など地域の多様な担い手が役割を分担し、共に目指すまちを創り上げていくための指針となります。

図1 総合計画の構成・期間



(3) 第6次長期総合計画の概要

基本構想では、個性豊かで調和のとれた持続可能なまちづくりに向けて、目指す都市像に『海と社に育まれる楽しい塩竈』を掲げ、「今ある個性を大切にし、みんなでつなぎ合わせて、新しい魅力を創り上げていく、未来に続くまちづくり」を基本理念に、多彩な魅力を生かした楽しさあふれるみなとまちを、市民をはじめとした多くの方々と共に創り上げることを目標としています。

また、目指す都市像の実現に向けてまちづくりの目標と方向性を8つの分野に定めました。

目指す都市像



まちづくりの基本理念

今ある個性を大切にし、
みんなでつなぎ合わせて、
新しい魅力を創り上げていく、
未来に続くまちづくり

まちづくりの目標と方向性

分野1 子ども	子どもたちの笑い声があふれるまち ～健やかに育つ・育てる環境づくり～
分野2 福祉	みんなが生き生きしているまち ～健康で安心して暮らせる地域づくり～
分野3 生活	快適に住み続けられるまち ～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～
分野4 産業	活気があり、誇りをもって働いている人がたくさんいるまち ～活力に満ちた産業づくり～
分野5 交流	何度でも訪れたいまち ～観光交流による賑わいづくり～
分野6 文化	日常に彩りのあるまち ～生涯にわたって学びあえる風土づくり～
分野7 協働	みんなが主役になれるまち ～さまざまな個性がつながり、役割を発揮できる環境づくり～
分野8 浦戸諸島	自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま ～人々が住まい・集える持続可能な島づくり～

(4) 第6次長期総合計画の特徴

塩竈らしい100の暮らし

これからの塩竈で暮らしを考える市民とのワークショップを通じて、『楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい』という市民の想いがあふれた「塩竈らしい100の暮らし」を作成し、本計画に反映させています。

図2 塩竈らしい100の暮らしとワークショップの様子

①住んでいて心地良く、誇りを持てるまち

安心して暮らせる暮らしや、コンパクトシティの利便性を生かして環境に配慮する暮らし、自然や歴史・文化などの地域特色を生かした暮らしなどが描かれました。



②子どもたちが生き生きしているまち

幅広い年齢の子どもが縄や地域の人の温かみに触れながら、豊かに成長していく暮らしなどが描かれました。



しおがま未来創生プロジェクト

基本構想に掲げる目指す都市像「海と社に育まれる楽しい塩竈」の実現に向けて、基本計画の各施策を進めるにあたっての原動力となるものです。各分野の特に重点的に推進する施策を掲げ、機動的・横断的に取り組むことにより、施策連携に伴う相乗効果を発現するとともに、同時並行的に好循環を生み出そうとするものです。

図3 しおがま未来創生プロジェクトの推進による好循環のイメージ



02

計画の推進体制

(1) 推進体制

今後の本市のまちづくりにあたっては、国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標（SDGs）※¹」や、人口減少の歯止めと活力ある日本社会を目指すための「地方創生」に向けた取組、市民まちづくりワークショップから生まれた「塩竈らしい100の暮らし」など、国際的な視点から市民の視点までを幅広く取り入れることが重要となっています。

SDGsについては、国においても、地方でのSDGsの推進が地方創生にも資するとしており、**国が推進する「デジタル田園都市国家構想※²」などの地方創生施策において、横断的目標の中にSDGsによる地方創生の推進が組み込まれています。**

このことから、本市においても、**前期基本計画より各施策分野や成果指標にSDGsの要素を取り入れ、後期基本計画においても同様に一体的な推進を図ります。**

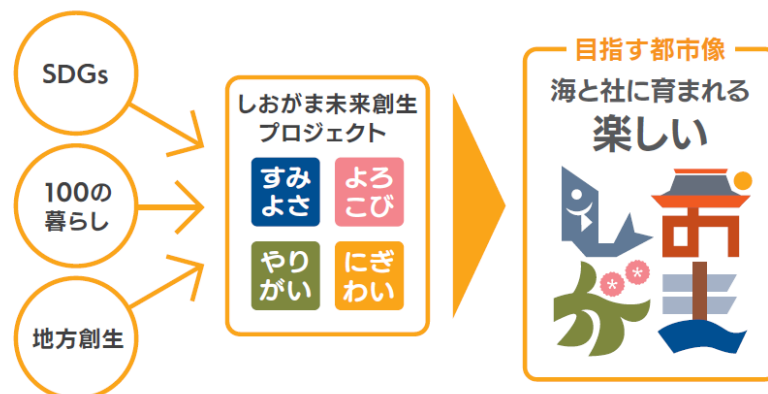
また、人口減少と少子高齢化が近隣市町よりも急速に進む中、持続可能なまちであるためには、まずは、市民、その他多くの人に「いつまでも住みたい」、「住んでみたい」、「訪れてみたい」という想いを持ってもらう必要があります。

これらの想いを早期に生み出していくため、地方創生の取組を効果的に推進し、人口減少の克服とまちの魅力度の向上を図ります。

さらに、市民が描いた「塩竈らしい100の暮らし」は、『楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい』という想いにあふれており、今後のまちづくりの重要な指針となるものです。

このような**指針**に基づき、**前期基本計画に引き続き、後期基本計画においても、基本構想で定める8つのまちづくりの目標に基づく具体的施策と、それらについて横断的な視点で機動的に取り組む「しおがま未来創生プロジェクト」を定め、『海と社に育まれる楽しい塩竈』の実現を目指します。**

図4 計画推進のイメージ



※1 【持続可能な開発目標（SDGs）】 2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の目標（ゴール）・169のターゲットから構成されている。

※2 【デジタル田園都市国家構想】 デジタルの力を最大限に活用し、医療、交通、産業といった地域の様々な課題を解決するとともに、地域の魅力を向上させることで「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」の実現を目指すもの。

(2) 進行管理

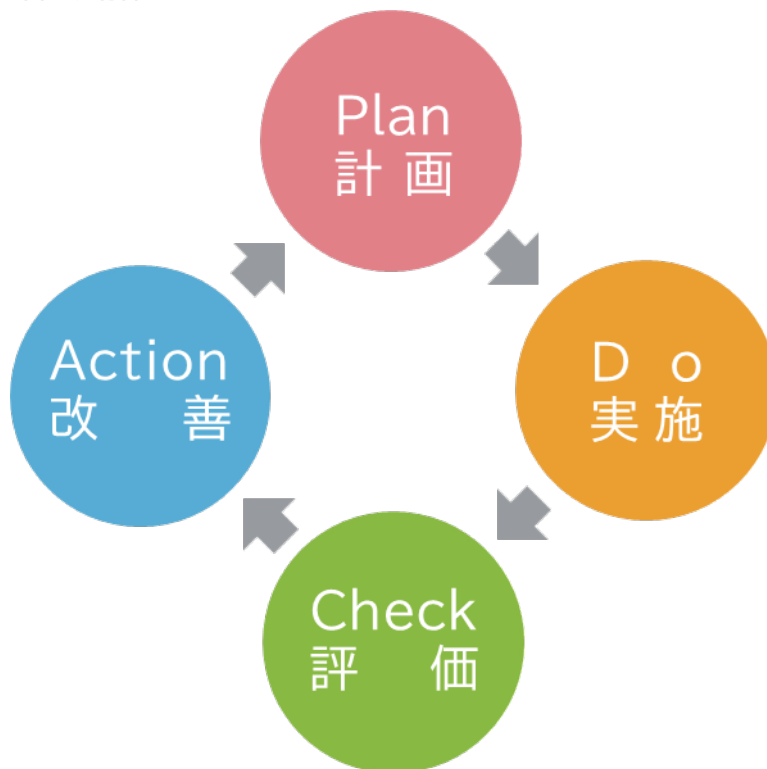
本計画を着実に推進するために、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）といったPDCAサイクルによる進行管理を行います。

しおがま未来創生プロジェクトにおける重要目標達成指標^{※3}や数値目標とともに、各分野に掲げる主要な施策について成果指標^{※4}を設定します。

また、成果指標のうちSDGsの推進に資する指標については、「SDGsローカル指標」に位置づけることで、本計画とSDGsを一体的に推進していきます。

さらに、本計画の実行や達成状況について、有識者などによる評価・検証の機会を定期的に設け、施策の改善につなげていきます。

図5 進行管理



※3【重要目標達成指標】最終目標が達成されているかを計測するための指標のことで、KGI（Key Goal Indicator）とも呼ばれる。

※4【成果指標】政策目標の実現に向けて、その達成度を確認するため、具体的な目標となる項目を定め、その目指すべき水準について数値などを用いて定量的に分かりやすく示したもので、「見える化」することにより、進捗状況の点検・評価のほか、事業や計画の見直しに活用する。

Ⅱ 後期基本計画の策定にあたって

1. 塩竈市の人口
2. 前期基本計画の振り返り
3. 主な時代の潮流

01

塩竈市の人口

(1) 人口の推移

本市の将来人口を令和8年において住民基本台帳人口51,500人と設定しています。令和7年12月末時点の住民基本台帳人口実績値は、本計画に示す将来人口における令和8年設定値である51,500人を364人下回り、51,136人になりました。

自然増減については、平成13年以降、死亡者数が出生者数を上回る自然減の状態が拡大傾向で推移しています。一方で、社会増減については、平成6年から24年まで、転出者数が転入者数を上回る社会減が続いていましたが、平成25年以降、社会増減を繰返し、令和5、6年は社会増が100人を超えています。

図6 目標人口と人口推移

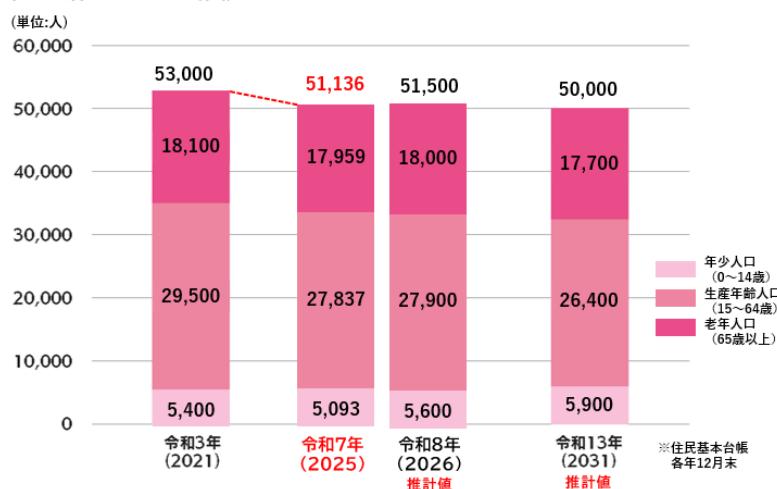


図7 自然増減の推移

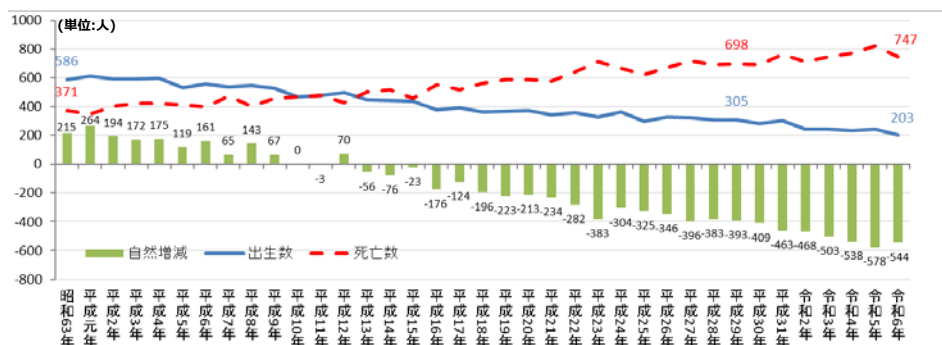
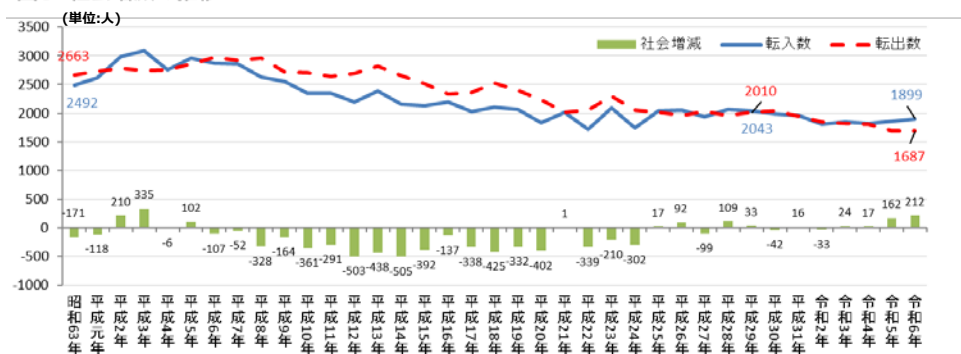


図8 社会増減の推移



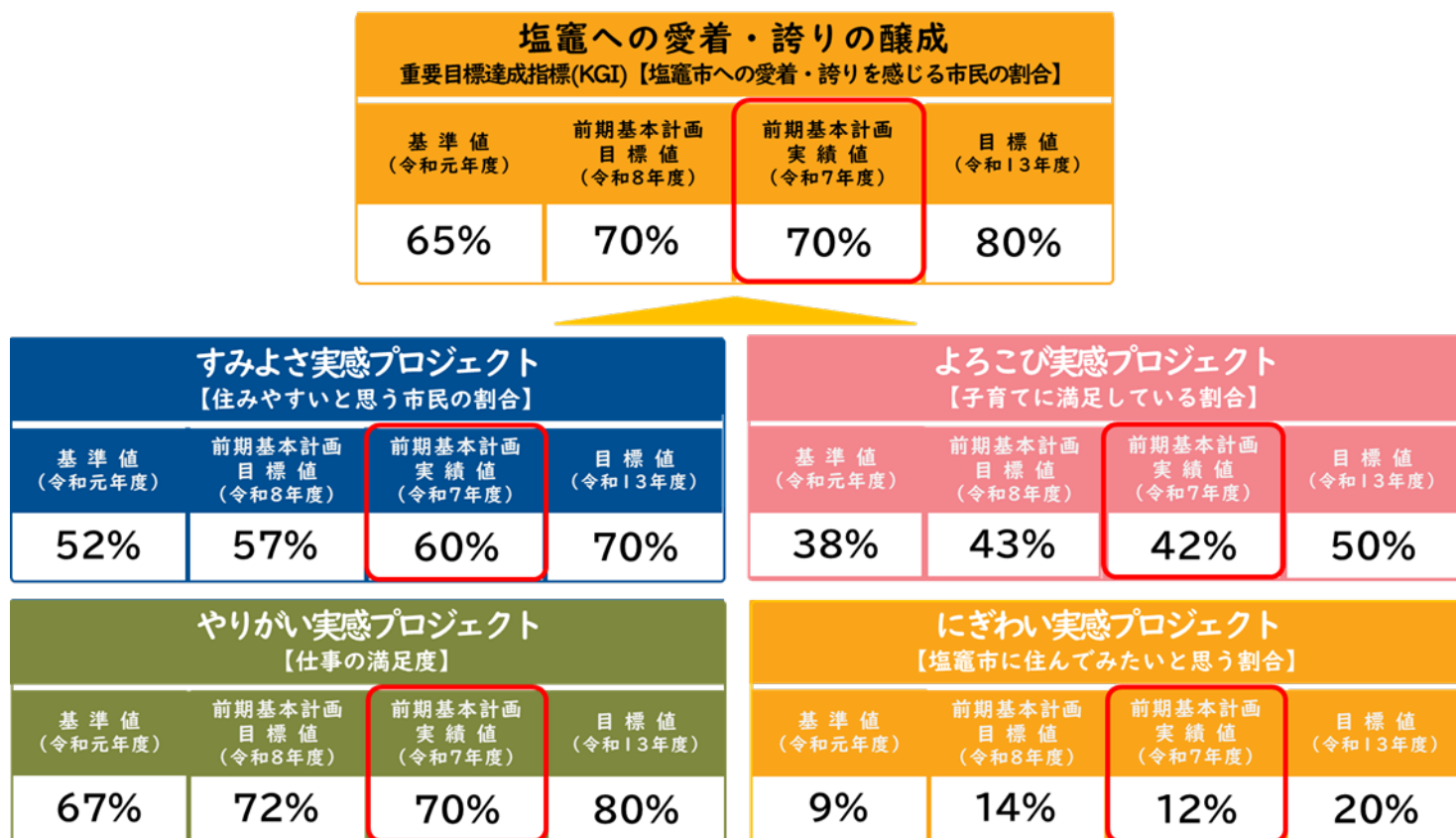
02

前期基本計画の振り返り

(1) しおがま未来創生プロジェクトの進捗状況

プロジェクトの重要目標達成指標（KGI）である塩竈への愛着・誇りの醸成の実績値は、令和元年度の基準値に対して5ポイント上昇しており、前期基本計画目標値に達しています。4つの実感プロジェクトについて、一部では前期基本計画目標値に達しておりますが、引き続き推進していく必要があります。

図9 しおがま未来創生プロジェクトの達成状況



(2) 前期基本計画成果指標の達成状況

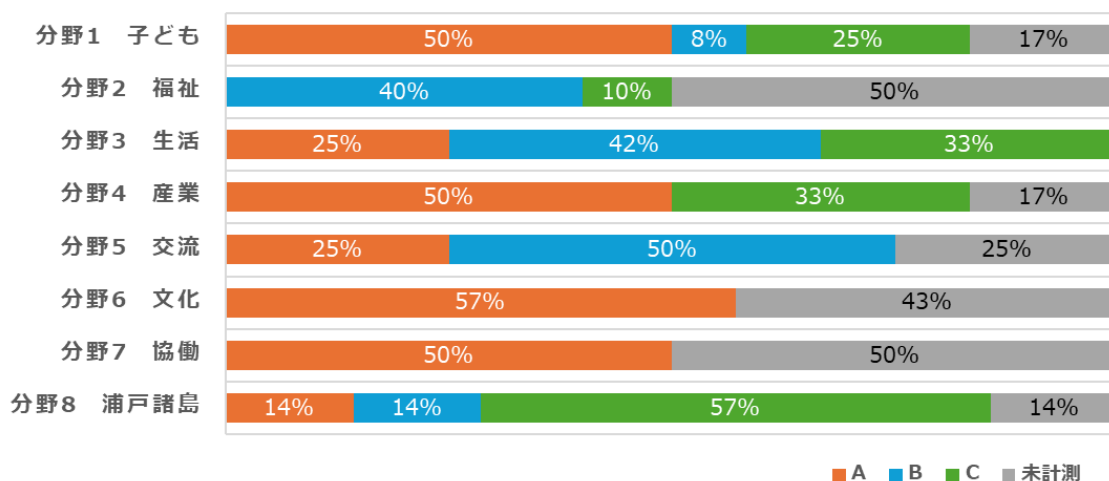
前期基本計画では、まちづくりの目標である8つの分野において、64の成果指標を設定しています。前期基本計画の期間は、令和8年度を最終年度としていますが、後期基本計画の策定にあたり、令和7年度にそれらの進捗状況の整理を行いました。

成果指標の達成状況については、実績値が令和8年度目標値を上回っている場合は「A」、目標値の80%以上の場合は「B」、80%未満の場合は「C」、実績値を今後アンケート調査等により計測を予定しているものは「計測予定」として整理しており、全体では32.8%が達成している状況となります。

図10 前期基本計画成果指標 達成状況

	A (達成)	B (80%以上)	C (80%未満)	未計測	計
分野1 子ども	6	1	3	2	12
分野2 福祉	0	4	1	5	10
分野3 生活	3	5	4	0	12
分野4 産業	3	0	2	1	6
分野5 交流	1	2	0	1	4
分野6 文化	4	0	0	3	7
分野7 協働	3	0	0	3	6
分野8 浦戸諸島	1	1	4	1	7
計	21	13	14	16	64
構成比	32.8%	20.3%	21.9%	25.0%	100.0%

図11 前期基本計画成果指標 分野別達成状況

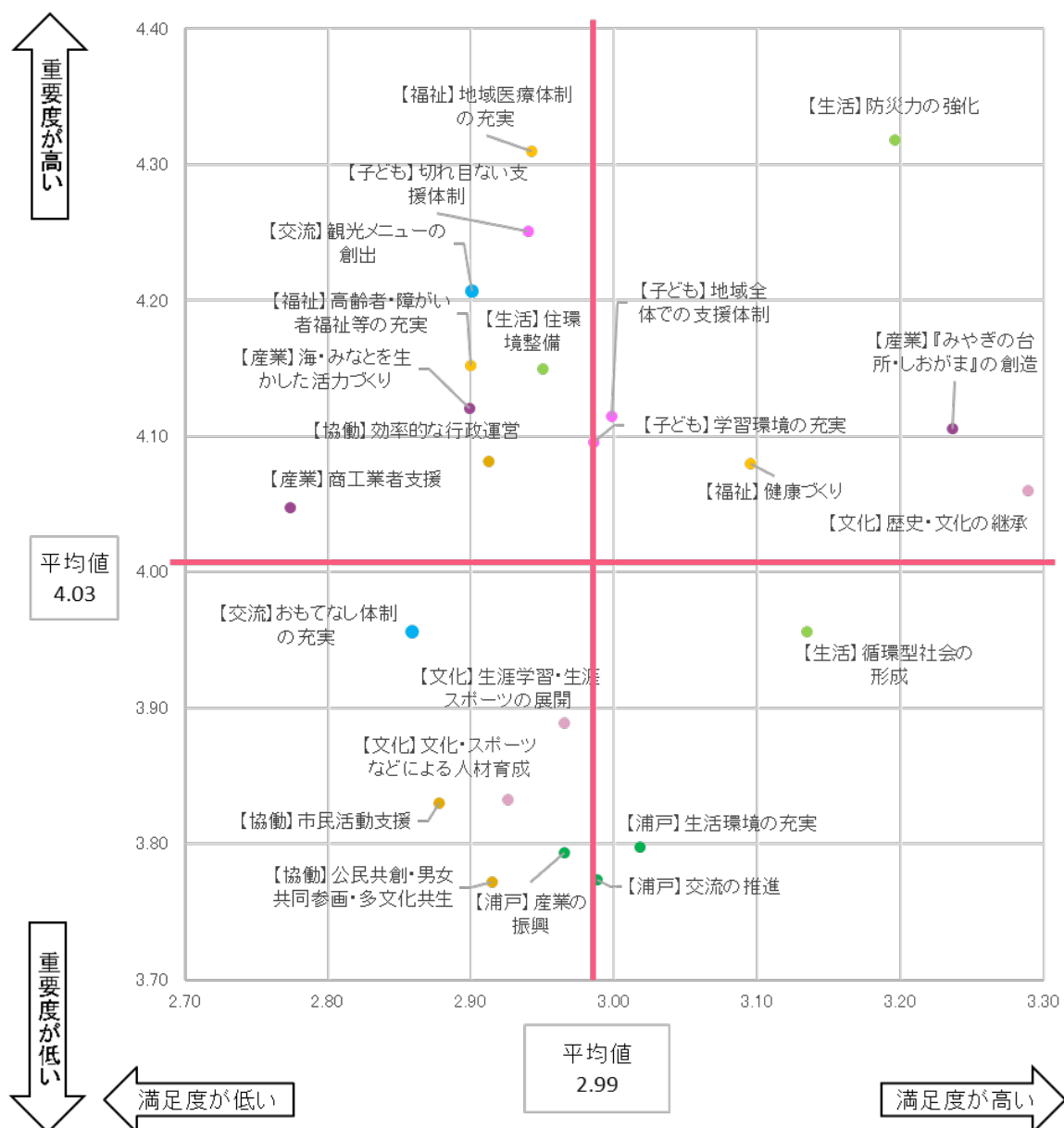


(3) 市民アンケート調査の結果

後期基本計画策定にあたり市民の思いを計画に反映させるため、市民アンケート調査を実施しました。15歳以上の市民から2,000人を無作為抽出し、郵送配布・回収によるアンケート調査により、市のまちづくりに対する取組の評価を行っています。市民が思う分野別の前期基本計画の施策の満足度と重要度を取りまとめ、マトリクス表で表すと以下のとおりとなります。

満足度と重要度がともに高いと項目して、【生活】防災力の強化、【産業】『みやぎの台所・しおがま』の創造、【文化】歴史・文化の継承があり、重要度が高いが、満足度が低い項目は【福祉】地域医療体制の充実、【子ども】切れ目ない支援体制、【交流】観光メニューの創出、【福祉】高齢者・障がい者福祉等の充実などが挙げられます。

図12 前期基本計画の満足度と重要度



03

主な時代の潮流

(1) 人口減少・少子高齢化社会の深刻化

人口減少と少子高齢化の進行は想定を上回るスピードで進行しており、医療・介護サービス等の需要がさらに拡大することにもない、社会保障費用が増大することが予想されます。一方で、若年層の減少により、地域の産業構造や労働市場への影響が深刻化し、地域経済の持続可能性が損なわれる懸念が出ています。

また、このような人口構造の変化は市民生活にも直結しており、高齢者の単身世帯化に伴う孤立や貧困のリスク、さらには担い手不足による地域コミュニティの防災・互助機能の低下など、多様な課題が出ています。これらの課題を踏まえ、持続可能な地域社会の再構築が必要となっています。

(2) 地方創生の推進

平成26年11月に公布・施行された「まち・ひと・しごと創生法」の基本理念に基づいて、国が策定した「長期ビジョン」と「総合戦略」を踏まえながら、本市でも平成28年3月に「塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

その後、国は従来の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、令和4年12月に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を閣議決定しました。

こうした国の動向を踏まえ、本市では、本計画において、地方版総合戦略として人口減少克服・地方創生という目的を明確にし、数値目標や重要業績評価指標（KPI）を設定するなど、必要な内容を備えて、統合する形で一体的に策定を行います。

(3) 情報化・デジタル化の進展

IoT^{※5}やAI^{※6}といった先端技術が社会に普及する中で、特に生成AI^{※7}の急速な進展は、社会経済のあり方を根底から変える革命的な変化をもたらしています。

これらの技術は、市民生活の利便性を高める新たな価値を創造する大きな可能性を秘めており、社会課題の解決や生産性の向上などに向けて、本市でも積極的な取組が求められています。

その一方で、働き方の急激な変化に対する不安やフェイクニュースによる情報の混乱、著作権やプライバシーといった法的・倫理的課題などのリスクも同時に生み出していることに注意が必要となります。

(4) 地球環境問題の深刻化

気候変動による自然災害の激甚化など、地球環境問題への対応は、市民の生活に関わる大きな課題となっています。

国は、2050年に温室効果ガス排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル^{※8}」の実現に向けて動きを速めています。この目標達成のためには、社会をクリーンエネルギー中心へと転換する「GX（グリーン・トランスフォーメーション）^{※9}」を新たな成長の機会と捉え、あわせて「循環型社会^{※10}」へと移行していくことが求められます。

これらの環境を守る行動は、国の「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略^{※11}」に位置付けられており、新たな産業や雇用を創出するとともに、私たちの安全で豊かな暮らしを支える「未来への投資」となります。

※5 【IoT(Internet of Things)】 コンピューターなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在するさまざまな物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

※6 【AI (Artificial Intelligence)】 コンピューターがデータを分析し、推論や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習などを行う人間の知的能力を模倣する技術のこと。

※7 【生成AI】 あらかじめ学習したデータをもとに、画像・文章・音楽・デザインなどを新たに作成する人工知能(AI)の総称。文章からイラストを作成する画像生成AIや、人間と対話しているかのような自然な言葉遣いで文章を生成する対話型AIなどが開発されている。

※8 【カーボンニュートラル】 二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林や森林管理などによる吸収量を差し引き、合計を実質的にゼロにすること。

※9 【GX(グリーン・トランスフォーメーション)】 化石燃料中心の社会からクリーンエネルギーを基盤とする脱炭素社会へ転換することで、経済成長と地球温暖化防止の両立を目指す取組のこと。温室効果ガスの排出削減やエネルギー効率の改善などを通じ、持続可能な社会の実現することを目的としている。

※10 【循環型社会】 大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした社会に代わる、新たな社会のあり方。廃棄物の発生を抑制(リデュース)し、使用済み製品を再利用(リユース)したり、資源として再生利用(リサイクル)したりすることで、持続可能な社会の実現を目指すもの。

※11 【2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略】 2050年のカーボンニュートラル実現と「経済と環境の好循環」の創出を目的として策定された国の産業戦略のこと。成長が期待される重点分野について、産業政策とエネルギー政策の両面から具体的な実行計画を定めている。

(5) SDGs（持続可能な開発目標）の取組推進

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の目標（ゴール）・169のターゲットから構成されています。

国においては、2016年5月に「SDGs推進本部」を設置し、国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む体制を整え、「SDGs実施指針」を決定しました。

現在、日本国内の地域においては、人口減少、地域経済の縮小等の課題を抱えています。地方自治体におけるSDGs達成へ向けた取組は、地域課題の解決に資するものであると同時に、地方創生を推進することも期待されることから、これら17の目標を踏まえ、本計画を推進していきます。

図13 SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴール



(6) 物価高騰と新たな経済局面への対応

ロシアによるウクライナへの侵攻や中東情勢の緊迫化に伴う世界経済への影響などを背景に原材料費やエネルギー価格が高騰しており、日本国内における物価動向は、高水準での上昇基調が続いています。

多くの中小企業では深刻な人手不足も相まって、物価上昇に追いつく賃上げが困難な状況にあるなど、格差の拡大も顕在化しており、地元中小企業や生活困窮者への支援、さらに物価高騰が自治体財政に与える影響への対応など、きめ細かな対策の必要性が高まっています。

Ⅲ 後期基本計画

1. まちづくりの目標と方向性に基づく施策

01

まちづくりの目標と方向性に基づく施策

第1章 子どもたちの笑い声があふれるまち（子ども）

まちづくりの方向性

健やかに育つ・育てる環境づくり

第1節 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築

第2節 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実

第3節 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に
取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで
示しています。



施策体系

第1節 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築

1 子どもと子育て世代への支援の充実

- よろこび

2 働きながら安心して子育てができる環境づくり

- よろこび

※12「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」働くすべての人々が、仕事と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった仕事以外の生活との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。

第2節 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実

1 個性を生かす学びや協同的な学びの充実

- ①「ユニバーサルデザイン」※13や「協同的な学び」の視点を取り入れ、一人も取り残すことなく「できる・わかる・思いやる」喜びが味わえる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。
- ②小学校と幼稚園・保育所・認定こども園などとの積極的な連携により、学びの連続性を高め、より良い子どもの成長につなげていきます。
- ③小学校と中学校との連携を進め、「児童生徒間」や「教職員間」のさまざまな交流活動を実施します。
- ④学校、家庭、地域などの関係機関が連携し、いじめの未然防止と早期発見・迅速な対応に努めます。
- ⑤教育支援センター「コラソン」が中心となって、不登校の児童生徒などの居場所づくりや相談体制を充実させます。

よろ
こび

よろ
こび

よろ
こび

2 豊かな歴史文化とのふれあいと世界に目を向けた学びの推進

- ①豊かな歴史や文化とふれあう機会の充実を図り、子どもたちの郷土愛を育みます。
- ②多彩な食文化を生かした体験学習や地域の恵みを取り入れた給食の提供などにより、食育を推進します。
- ③外国語指導助手（ALT）の活用による外国語教育や国際理解教育を充実させるとともに、海外との積極的な交流を推進します。

よろ
こび

よろ
こび

3 安全・安心で快適な教育環境づくり

- ①ICT（情報通信技術）を効果的に活用できる教育環境整備に努め、情報を活用する力を育み、子どもたちの創造性や可能性を広げます。
- ②安全・安心で快適な学校生活が送れるよう、良好な施設・設備の整備と確保に努めます。

よろ
こび

※13 【ユニバーサルデザイン】年齢、性別、身体的状況、国籍、言語、知識、経験などの違いに関わらず、できるだけ多くの人が使いこなせるものや環境のデザインを目指す概念のこと。

第3節 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

1 学校・家庭・地域が連携した子どもの育ちと子育て支援の充実

- ①子どもたちの健やかな成長に向けて、地域などが主体となった放課後の居場所づくりを支援するとともに、学校・家庭・地域と連携し、取組の充実に努めます。
- ②子どもの居場所や身近な遊び場の整備を推進し、情報を広く提供して、利用促進を図ります。
- ③PTA活動や子ども会活動をはじめとした地域コミュニティ活動など、多様な担い手が子どもたちを育む活動を支援します。



2 子どもたちの安全確保体制の充実

- ①スクールガード・リーダー等と連携し、子どもたちの安全確保に向けた取組を地域ぐるみで推進します。
- ②日常の中でできる「ながら見守り」や「ついで見守り」を推進し、地域全体で子どもたちを見守る体制を構築します。

3 地域と連携した家庭教育応援体制の充実

- ①家庭教育の重要性への理解を深めるため、普及啓発に努めるとともに、親自身が子育てや教育について学ぶ機会を提供します。
- ②家庭教育支援に関わる人材の育成に努め、地域全体で子育てを応援する体制をつくります。

みんなで描いた「100の暮らし」

子どもの分野

子どもの分野では、幅広い年齢の子どもが親や地域の人々の温かみに触れながら、豊かに成長していく暮らしが描かれました。



放課後、子どもたちの 笑い声が響く暮らし

放課後になると近所の公園や空き地に子どもたちが集まり、子どもだけの世界をつくって遊んでいる。近くを通る住民やお巡りさんが子どもたちの様子を見守る。



町内会の盆踊りで 子どもたちが 跳ね躍る暮らし

各町内会では住民の手による夏祭りが毎年開催される。当日はお神輿や盆踊りに子どもたちが元気に参加するので、運営にあたる親世代や祖父母世代にも活気が生まれる。



地域みんなで たるみこしを作り、 町内へ繰り出す暮らし

ある地区では毎年、地域住民が集まってたるみこしを作る。作り方はシニア世代から若者、子どもたちへ受け継がれていく。ほかの地区でも、それぞれに、多世代が交流できるさまざまな慣習が根付いている。



運動部の学生が坂道で トレーニングする暮らし

夕方になると、急な坂道を利用してトレーニングをする学生たちの仲間を励ます声が響く。毎年このまちからは、脚力を武器に全国で活躍する選手が現れる。



校庭で凧揚げをする 暮らし

正月、学校の校庭には凧揚げの子どもたちの姿が見られる。腕に覚えのある近所の大人たちが、凧の作り方や揚げ方のコツを教えながら子どもたちの遊びを見守っている。



読み聞かせて 絵本に親しむ暮らし

小さい子どもが図書館やエスプに行くと、スタッフや保護者、ボランティアの中高生などが絵本の読み聞かせをしてくれる。塩竈の民話をもとにした紙芝居を鑑賞できる日もある。

※「みんなで描いた100の暮らし」は、「塩竈が塩竈らしくここでしかなし得ないかたちで続いていくこと」をテーマに、これからの塩竈での暮らしを考える市民まちづくりワークショップを全6回開催し、参加者のアイデアを「100の暮らし」にまとめたものです。



子どもたちがまちの 未来を語り合う暮らし

地域や学校などで、まちの現状や未来について子どもたちが意見を言う機会がある。子どもたちは意見を言うためにまちのことを学び、大人は子どもたちの考えを知ることができる。



体験を通じて 塩竈の良さを知る暮らし

子どもたちが塩竈の文化、産業、職業などを体験して学べる場がある。さまざまな職業・立場の人が場の運営に関わり、職業・世代を超えた交流が生まれている。



地元で働きながら 子育てをする暮らし

地域の保育施設には十分な定員数が確保されている。市内や近隣にはさまざまな職種があり、親たちは働きながら子育てしやすい。通勤に長い時間を奪われないので子どもとゆっくり過ごす時間も確保できる。



勉強を口実に子どもたちが 集まる暮らし

放課後や休日、集会所や児童館に子どもたちが集まって教科書を広げている。教師経験のある住民や近所の大学生がボランティアで勉強を教えているが、いつも友人とひそひそ話をしている子もいる。



図書館の学習スペースで 集中して勉強する暮らし

図書館の自習コーナーやコミュニティセンターの学習室など、中高生が勉強に集中できる場所がある。努力して目標を達成した先輩の姿を見た学生らは「勉強は自分でするもの」ということを学ぶ。



子どもたちの通学を 地域で見守る暮らし

毎朝夕、通学中の子どもたちと地域住民との挨拶の声が聞える。通学路を走る車は常に子どもたちに注意して徐行している。夕方、家々の門灯や玄関灯は早めに点灯される。



大人と中高生が 同じテーマで 意見を交わし合う暮らし

カフェやコミュニティスペースでトークイベントが開催される。毎回テーマを決め、大人も中高生もそれぞれの視点で考えを述べ合う。会場は和やかな雰囲気、イベント終了後は雑談に花が咲く。



子どもたちが 大人の知らない 世界をもつ暮らし

近所の子どもたちが、子どもだけの秘密の国を作って遊んでいる。小さい子をみんなで守ることは暗黙の掟。大人たちは子どもたちの世界を邪魔しないようにさりげなく見守っている。



第2章 みんなが生き生きしているまち（福祉）

まちづくりの方向性

健康で安心して暮らせる地域づくり

第1節 みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実

第2節 生涯現役社会実現に向けた健康増進と健康寿命の延伸

第3節 安心できる地域医療体制の充実

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に
取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで
示しています。



施策体系

第1節 みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実

1 高齢になってもいつまでも生き生きと暮らせる地域づくり

- ① 高齢者が知識や経験を生かし、積極的に担い手として地域社会に参画できる環境をつくり、生きがいの創出に努めます。
- ② 地域や事業所、行政が連携し、多様な主体により高齢者の日常生活の支援や介護予防サービスの提供に努めます。
- ③ ひとり暮らし・二人暮らし高齢者世帯への支援の充実を図るとともに、在宅で介護をする家族へのきめ細かい支援を継続します。
- ④ 加齢に伴うフレイルや介護、認知機能の低下に対する理解を深めるとともに、高齢者やその家族に対して効果的な支援が行われる体制の構築や支援の充実を図る取組を推進します。

すみ
よさ

2 障がいのある人も生き生きと暮らせる共生社会づくり

- ① 福祉の心を育む教育やボランティアの育成支援などを通じた「心のバリアフリー」と、効果的な福祉情報の提供や情報格差の是正など「情報のバリアフリー」を推進します。
- ② 道路や公共施設の環境整備に努め、障がいのある人や配慮が必要な人も住みやすいまちづくりを推進します。
- ③ 障がいのある人の雇用について、企業へ積極的に働きかけるとともに、福祉施設と連携して就労支援の充実を図ります。
- ④ 障がい福祉サービスについて、相談支援体制を強化するとともに、地域の実情に合わせた質と量を確保し、安定的なサービス提供に努めます。

すみ
よさ

やり
がい

3 生活困窮者の自立と社会参加に向けた支援の充実

- ① 生活困窮者の自立に向けて、一人一人の状況に応じたきめ細かな相談体制の充実に努めるとともに、関係機関と連携しながら就労支援や生活支援を強化します。
- ② 貧困の連鎖の解消に向けて、経済的に困窮している家庭の子どもたちへ、学習機会を提供します。
- ③ 物価高等の影響に応じた生活困窮者への支援を国、県と連携して取り組みます。

すみ
よさ

4 地域福祉の推進

- ① 民生委員・児童委員など地域活動の担い手との連携を深め、地域課題の早期発見と早期対応に取り組みます。
- ② 福祉関係団体と連携し、地域で互いに助け合う体制の構築に努め、地域福祉の向上を図ります。

第2節 生涯現役社会実現に向けた健康増進と健康寿命の延伸

1 からだの健康づくり

- ①健康についての知識の普及啓発に努めるとともに、楽しみながら継続して健康づくりに取り組める環境をつくれます。
- ②疾病の早期発見に向けて、生活習慣病や健(検)診についての情報発信を強化するとともに、「受診しやすい健(検)診」の環境整備に努めます。
- ③疾病の早期発見に向けて、生活習慣病や健(検)診率の向上に向けて情報発信を強化するとともに、「受診しやすい健(検)診」の環境整備に努めます。
- ④高齢者が知識や経験を生かし、ボランティア活動や生涯学習などを通して、生涯にわたり、生きがいを持って生活できる環境づくりへの支援に努めます。

すみ
よさ

2 こころの健康づくり

- ①ストレスと上手に向き合う方法をはじめとした、心の健康に関する知識の普及啓発に努めます。
- ②心の健康に関する講座や研修を通じて、見守りや支援を行う人材の育成に努めるとともに、関係機関と連携しながら相談支援体制を充実させます。

3 食から始まる健康づくり

- ①食と健康への関心を高める取組を充実させ、子どもの時から調和のとれた食生活^{※14}の定着を促進します。
- ②食事の楽しさを実感しながら、食を通じた学びや心身の健康維持につながる「共食」の機会を増やす取組を推進します。
- ③食に関わる人たちのネットワークを構築し、魚食をはじめとした食文化や塩竈の食材を生かした体験学習活動などを協働して展開することにより、食育を推進します。

よろ
こび

やり
がい

※14【調和のとれた食生活】健康的で栄養バランスのとれた食生活とあわせて、生活リズムも望ましいスタイルにすること。

第3節 安心できる地域医療体制の充実

1 保健・医療・介護分野のネットワーク化の推進

- ①切れ目のない保健・医療・福祉サービスの提供に向けて、地域で適切なケアマネジメント※15が行われるよう環境整備を進めるとともに、多様な職種・機関との連携協働による地域包括支援ネットワークの構築を図ります。

2 休日・夜間の安定的な医療提供

- ①医師会や歯科医師会、薬剤師会、近隣市町等との連携強化を図り、休日の急患診療や救急歯科診療の安定的な提供に努めます。

3 市立病院を中心とした地域医療体制の充実

- ①住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、医療と介護・保健分野の連携をより一層強化し、市立病院を中心とした地域医療体制の充実を図ります。
- ②市立病院については、消化器系を中心とした急性期医療、在宅復帰を支援する回復期医療、将来大幅な増加が見込まれる在宅医療を柱に、人間ドックや検診業務など予防への取組も強化しながら、地域に寄り添う医療の提供に努めます。
- ③市立病院における安全で良質な医療の提供の継続に向けて、施設の大規模改修を進めるとともに、不足が見込まれる医療スタッフの確保に努めます。



※15【ケアマネジメント】サービスを必要とする利用者と、実際の福祉サービスや医療サービスなどの提供をつなぎ合わせること。

福祉の分野では、お年寄りが子どもや地域の人たちとふれあう暮らしや障がいのある人も安心できる暮らし、みんなが健康で元気でいられる暮らしが描かれました。



祖父母が孫に 手を引かれて 坂道を登る暮らし

小さな子が祖父母の手を引いて歩く。足腰自慢の祖父母も「孫にはもう負けるね」と笑う。坂道の途中の茶店に孫と寄るのも楽しみ。道を走る車は歩行者優先を徹底している。



家族で毎日 「しおがま100歳体操」 を続ける暮らし

市民有志が専門家の助言を受け、子どもも高齢者も一緒に取り組める楽しい体操を考案した。合理的に健康増進を図るだけでなく、家族で取り組むことで互いの健康観察にも役立つ。



「買出しツアー」で 商店街に買い物に 行く暮らし

週に2～3回、近隣住民どうしが1台の車に乗って商店街に買い物に行く。日常の買い物や用事を済ませられるので、運転免許を返納する高齢者が多くなった。



経験を生かして 「ちょこボラ」で 活躍する暮らし

だれでもできることから個々の経験や特技を生かせることまで、ボランティアに参加できる場面が豊富にある。地域の役に立っていると思えると暮らしに張り合いが出る。



健康についての勉強会で 情報交換する暮らし

近所のコミュニティスペースで定期的に健康や病気についての勉強会が開かれている。専門家による助言や参加者どうしの情報交換を通して、住民の健康意識は向上した。



まちを歩く高齢者を 地域で見守る暮らし

地域を歩く高齢者を近所の人が見守っている。危険がないように声をかけ、必要に応じて家族や施設に連絡する。近くの交番の巡査も地域の人様子を把握し、頻繁に見回っている。



働く人の健康を 大事にする暮らし

多くの事業者の間に、従業員が長く元気に働けることが自社の利益につながるという意識が浸透している。そのため従業員の体にかかる負荷を軽減する職場環境が整えられている。



シニア世代が短時間の アルバイトで小遣いを 稼ぐ暮らし

体に負担の少ない短時間の業務をシニア世代に割り振るしくみがあり、多くの人が就業して社会参加しながら小遣いを稼ぐ。生活にハリが出て元気な高齢者が多くなり、勤労世代の負担が軽くなる。



障がいのある人が ゆっくり安全に道を 歩く暮らし

市内は、段差のない歩道や点字ブロック、音声案内も整備されており、高齢者や障がいのある人も歩きやすい。また、市民には困っている人をサポートする意識が根づいている。



空き店舗で健康麻雀を しながら笑い合う暮らし

「シャッター通りからウェルネスの聖地へ」を合言葉に空き店舗の活用が進められた。健康麻雀、囲碁、将棋などを楽しめるスペースもでき、商店街がにぎやかになるとともに新たな雇用も生まれた。



近くにかかりつけの 町医者がある暮らし

子どもが急に熱を出したので近くの医院に駆け込んだ。生まれた時から診てもらっているので安心して受診できた。祖父母は定期的な往診を受けていて、総合病院への入院を手配してもらったこともある。



給食で地元の食材を 日常的に味わう暮らし

各校で作られる給食には塩竈産の魚介や野菜、塩・味噌・醤油などがふんだんに使われ、郷土学習の生きた教材になっている。生産者にとっては地域の子どもたちを育む営みが生きがいとなる。



地元産食材を用いて 「作って食べる」を 楽しむ暮らし

日常的に地元食材を使って料理をする人が多くなった。牡蠣やホヤの殻をむく、めかぶを湯通しして刻むなどの下処理は、小さい頃から経験する機会が多く、だれもが自分のできる。



第3章 快適に住み続けられるまち（生活）

まちづくりの方向性

安全で安心なコンパクトさを 生かした住環境づくり

第1節 災害などに対する「強さ」と「しなやかさ」を持ち、
安全・安心に生活できる都市環境づくり

第2節 コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・
住んでみたいまち」の形成

第3節 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に
取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで
示しています。



施策体系

第1節 災害などに対する「強さ」と「しなやかさ」を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり

1 市民一人一人の防災・減災意識の向上

- ①東日本大震災での教訓を生かし、一人一人が日ごろから災害を「我が事」として捉え、災害時の「自助・共助」による具体的な行動につながるよう、防災訓練や津波防災センター等を活用した防災教育の充実に努めます。
- ②災害時の対応方法や地域ごとの災害リスクへの理解を深めるため、ハザードマップ^{※16}を充実させ、あらゆる機会を活用しながら普及啓発を行います。

すみ
よさ

2 地域防災力の強化

- ①自主防災組織の育成強化や消防団員の確保を通じて、市民との協働による防災力の向上に取り組むとともに、消防施設や設備の必要性を検討しながら、整備を計画的に進め、資機材の適正な維持管理に努めます。
- ②木造住宅の耐震診断や耐震改修について、普及啓発と支援に努めるとともに、公共施設についても計画的に耐震化を進めます。
- ③上下水道施設について計画的に耐震化を進めるとともに、包括的民間委託の導入など、雨水施設の適正な維持管理に努めます。

すみ
よさ

3 犯罪が起こりにくいまちづくりの推進

- ①犯罪が起こりにくい環境整備に向けて、防犯協会をはじめとした関係機関との連携を強化するとともに、防犯カメラや防犯灯の整備に向けた支援を行います。
- ②空き家の実態を把握し、危険と思われる空き家については所有者等に対し適切な管理を行うよう啓発に努めます。
- ③交通安全施設の整備と適正な維持管理を行うとともに、交通事故防止に向けた普及啓発に努めます。
- ④悪質・巧妙化する特殊詐欺や消費者トラブルを未然に防ぐため、日ごろから情報の収集や啓発に努め、相談しやすい体制を整えます。

すみ
よさ

※16 【ハザードマップ】発生が予測される自然災害について、その被害の及ぶ範囲、被害の程度、さらに避難の道筋、避難場所等を表したもので、市で公開している災害予測地図。

第2節 コンパクトで生活サービスが充実した

「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成

1 地域特性を生かした、安全・快適で魅力のある住環境の整備推進

- ①「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成に向けて、コンパクトシティ※17や魅力ある景観など、本市の特性を最大限に生かした住環境の整備に努めます。
- ②公営住宅の長寿命化を図り、適切な維持管理に努めるとともに、集約・再編などを検討します。
- ③活用可能な空き家については、事業者と連携した空き家バンクの積極的な活用などにより、定住人口増加に向け、あらゆる視点で利活用を促進します。
- ④障がいのある人や高齢者向けの住宅のバリアフリー化を支援します。
- ⑤住環境の向上のため、地域と連携しながら狭あい道路の改善に努めます。

すみ
よさ

にぎ
わい

にぎ
わい

2 気軽に集える憩いの空間の創出

- ①伊保石公園については、幅広い年齢の子どもたちが遊べる場や眺望の魅力を生かせる場として、より市民に親しまれる環境の創出に努めます。
- ②点在する身近な公園については、地域や事業者との協働による維持管理に向けた体制を構築し、みんなが利用しやすい環境を整えます。

よろ
こび

3 安全で安心な生活基盤の確保

- ①道路等については、計画的な維持管理に努めるとともに、バリアフリー化を含めた安全で魅力のある歩道の整備に努め、「居心地の良く愛着のある歩きたくなるまちなか」を目指します。
- ②公共施設については、人口減少や少子高齢化による需要の変化に対応するため、長期的な視点から更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施します。
- ③安全でおいしい水をいつでも供給できるよう、良質な水の確保と将来にわたる水の安定供給に努めます。
- ④下水道（汚水）の未普及解消に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図ります。

すみ
よさ

すみ
よさ

4 公共交通体系の連携強化

- ①バス、タクシー事業者及び近隣自治体と連携し、市内4駅を起点とした公共交通体系を維持し、回遊性を高めるとともに、駅前広場の機能の維持に努めます。

すみ
よさ

※17【コンパクトシティ】市町村の中心部に居住地や都市機能を集積させて、市街地の活性化や行政コストの削減を図り、利便性を向上させるまちづくりの考え方。

第3節 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

1 自然環境の保全と活用

- ①海辺のまちでの暮らしを最大限に享受できるよう、特別名勝松島をはじめとした貴重な自然景観や親水空間の保全に努めます。
- ②まちのみどりを守り、後世に伝えていくため、子どもたちの環境教育の充実や、市民・事業者の環境活動を支援します。



2 循環型社会の実現

- ①脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者と連携を図りながら、**環境と調和**した再生可能エネルギー等の活用**を推進します**。
- ②環境に配慮した社会資本整備や交通体系の推進など、**持続可能な**都市基盤の実現を図ります。
- ③廃棄物処理施設の適正な維持管理に努め、生活環境の清潔保持と環境保全、公衆衛生の向上を図ります。
- ④**気候変動への影響に対する対応**や「3 R（スリーアール）^{※18}」活動について普及啓発を促進するとともに、市民・事業者による主体的な取組を支援します。



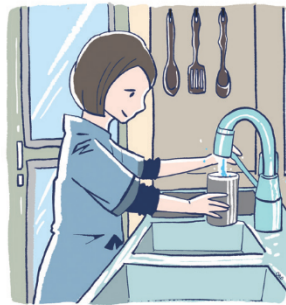
※18【3 R（スリーアール）】環境と経済が両立した循環型社会を形成していくための3つの取組の頭文字をとったものであり、リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）の順番で取り組むことが求められている。

生活の分野では、地域の人たちが一緒になって防災に取り組む暮らしや、自然や歴史・文化などの地域特性を生かした暮らし、コンパクトシティの利便性を生かして環境に配慮する暮らしが描かれました。



まちの空き家を生かす暮らし

まちなかに残る古い住居はきれいにリフォームされ、子育て世代の夫婦が住んでいる。近くの商店におつかに走る子どもたちの姿が日常的に見られる。



おいしい水がある暮らし

いつでも安全で良質な水道水が使えるので、乾いた喉を気軽に潤すことができるし、自宅での料理も楽しめる。



地域に花を植えて交流する暮らし

子どもたちが学校の授業で種をまいて苗をつくり、地域のシニア世代と協力して歩道のプランターや公園の花壇に植えた。作業を通して世代を超えた交流が生まれている。毎年、四季の花が地域を彩る。



防災訓練で地域住民の状況を共有する暮らし

年に2回、町内会単位で防災訓練が開催され、ほとんどの住民が参加する。訓練後にはみんなで鍋や豚汁を食べながら、災害時に支援が必要な住民の情報などを共有する。



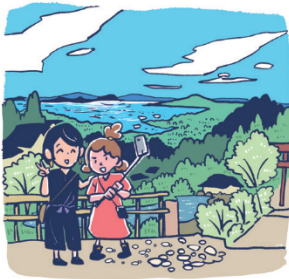
海が見える公園でバーベキューを楽しむ暮らし

海が見える公園で、家族でバーベキュー。お腹がいっぱいになったら、芝生を走り回る子どもたちを見守りながら、パパとママはゆっくりと時間を過ごす。



海が近くにある暮らし

海辺には、いつも犬と散歩する人や釣りを楽しむ人の姿が見られる。海の水も年々きれいになってきた。湾内に形成された干潟では子どもたちがカニやゴカイを見つけて歓声をあげる。



鹽竈神社からの 風景を眺める暮らし

気分転換に鹽竈神社から千賀の浦（塩釜湾）の風景を眺める。神社にはほかにも、鹽竈神社博物館屋上からの風景や表参道を見上げる構図など、市民に人気の景観がある。



夏にカブトムシを 見つける暮らし

夏、丘の上の公園ではカブトムシを見つけた子どもたちが歓声をあげる。木々が茂る場所は市内に多くあり、時には住宅地の公園でカブトムシが見られることも。



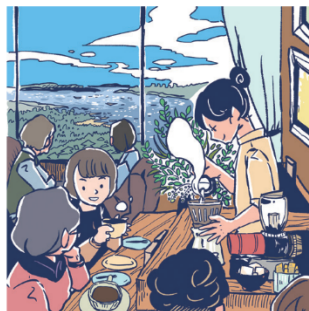
地図や地名の 歴史を学び災害に 備える暮らし

古地図に描かれた古い海岸線や地名に残るヒントをもとに、地区ごとの災害リスクについて学ぶ。知見は「津波防災センター」に集約されるとともに市民に共有され、地域の防災力が高まった。



道や橋を名前で よぶ暮らし

市内の多くの道や歩道橋には地域住民がつけた名前がある。住民どうしの会話で愛着をもって用いられるうちに、行政上の名称としても定着した。



丘の上の空き家を 改装したカフェで 談笑する暮らし

海が見える丘の上の空き家を地域の人みんなで改装してカフェを作った。コーヒーやケーキのほか、お茶や和菓子もあり、日々、さまざまな世代の住民が坂を登って集まってきては談笑している。



徒歩とバスと電車で 移動する暮らし

バスの本数が多く、市内での用事はバスと徒歩で済ませられる。市内に4つある駅は、市外へ出かける市民の足としてよく利用されていて、環境にも配慮する人が多くなった。



第4章 活があり、誇りをもって働いている人がたくさんいるまち（産業）

まちづくりの方向性

活力に満ちた産業づくり

第1節 数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造

第2節 商工業者の持続的な経営安定や事業承継・新規創業への支援の充実による地域活力の向上

第3節 海とみなとを生かした活力づくりや新たな産業と若者も満足できる雇用の創出

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に
取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで
示しています。



施策体系

第1節 数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造

1 多彩な地域資源を生かした食のまちづくり

- ①食に関わるさまざまな産業の連携促進により、食のブランド力向上と新たな地域資源の創出を支援し、地域ブランディング※19に努め、「食による産業振興」を図ります。
- ②安全・安心で魅力のある食の提供に向けて、衛生管理や環境に配慮した生産などに関する取組を支援します。
- ③市民に地元の食や食文化に触れる機会を提供し、愛着を深めることで、地元での消費拡大を図ります。
- ④地域事業者や団体と連携し、地域が一体となって、訪れる人々に本市の食や食文化に触れる機会を提供することで、「また来たい」と思われる取組を推進します。
- ⑤食に関わる人たちのネットワークを構築し、魚食をはじめとした食文化や塩竈の食材を生かした体験学習活動などを協働して展開することにより、食育を推進します。（再掲）

やり
がい

やり
がい

やり
がい

にぎ
わい

やり
がい

2 水産品・水産加工品の流通拡大

- ①魚市場においては、衛生管理の徹底と、積極的な漁船誘致活動を行い、取り扱い魚種の拡大による水揚げ増進と、既存魚種の新たなブランド化の確立に努めます。
- ②水産品・水産加工品を活用した、新たな「食」の提案につながる取組の推進や、事業者・大学などと連携した魚食に関する体験機会の充実などにより、魚食文化の継承と地元からの消費拡大を図ります。
- ③水産品・水産加工品の流通拡大に向けて、さまざまな商談機会や流通経路を活用した国内販路の拡大や、海外の食文化に適合した商品開発などによる輸出商流の確立を支援します。
- ④円安等の国際情勢の影響を受ける事業者への支援を国や県と連携し取り組みます。

やり
がい

やり
がい

やり
がい

やり
がい

※19 【地域ブランディング】 地域の固有性を持つ資源（原材料、加工・製造技術、歴史的いわれ等）を活用して、地域の商品にブランドの機能を持たせる取組

第2節 商工業者の持続的な経営安定や事業承継・新規創業への支援の充実による地域活力の向上

1 「チャレンジしたくなるまち」に向けた魅力向上

①若い世代を中心に、だれもがチャレンジしたくなる創業支援体制の強化を図ります。

やり
がい

②中小企業が持つ貴重な技術やノウハウを引き継ぐため、関係機関と連携し、事業承継に係る普及啓発やサポートに努めます。

やり
がい

2 地域経済の基盤強化

①急速な物価高に対する中小企業の経営安定と経営基盤強化のため、商業関係団体や金融機関等と連携した支援の充実に努めます。

3 個店の魅力がつながる商店街づくり

①個店の魅力を創造する取組や、地域や個店の連携を促すとともに、空き店舗の利活用をはじめとした補助メニューの充実を図り、魅力のある個店の集積を図ります。

やり
がい

第3節 海とみなとを生かした活力づくりや

新たな産業と若者も満足できる雇用の創出

1 海・みなとへの愛着づくりと塩釜港区の利活用

- ①北浜緑地公園を中心とした親水空間、千賀の浦緑地をはじめとした港奥部のイベントスペース、マリンゲート塩釜が持つ観光拠点機能の一体的な活用とプロモーションの強化を図り、賑わいのあるベイエリアを再生します。
- ②港湾計画に基づく塩釜港区の機能強化の促進と、安全で円滑なベイエリア周辺の道路・緑地の整備に向けて、国・県に対しての働きかけに努めます。
- ③塩釜港区の立地の優位性や本市独自の優遇制度など、ポートセールスに取り組み、入港船舶や貨物量の増加を図ります。

にぎ
わい

にぎ
わい

やり
がい

2 地域特性や地域課題を踏まえた雇用創出と産業共創

- ①産業の大きな課題となっている人材不足の解消に向けて、多様な人材が活躍できるよう、制度拡充などについて国に働きかけるとともに、雇用環境の整備を図ります。
- ②本市の歴史・文化や自然、立地の優位性など、地域特性をもつ遊休地の情報を積極的に発信し、若者も魅力を感じる企業の誘致に努めます。
- ③大学や企業との積極的な連携により、地域課題解決に向けた実証実験の場の提供などを通じて、新たな産業の種を共に創ります。
- ④自然環境やコンパクトシティの利便性を生かしたリモートワーク※20の環境整備やサテライトオフィス※21の誘致に努めます。

やり
がい

やり
がい

やり
がい

やり
がい

※20 【リモートワーク】 コンピューターや通信回線などを利用して、勤務先のオフィス以外の場所で仕事すること。

※21 【サテライトオフィス】 企業の本社・本拠地から離れた場所に設置されたオフィスのこと。都内、郊外、地方などで多様な働き方を促進することを目指すもの。

産業の分野では、子どもたちが地元の食材を使って楽しく学ぶ姿や、新しい商品を共同で生み出す姿、仲卸市場や地元の商店で楽しく買い物をする姿など、活気のある暮らしが描かれました。



近所に行きつけの店がある暮らし

地域には個人経営のさまざまな店があるので、たいいていの買い物は徒歩圏内で済ませている。店主も客も同じ地域の住民。毎日の買い物の中で信頼関係が生まれている。



魚市場で干物作りを体験する暮らし

魚市場の調理室で定期的に行われる市民向け料理教室で、市内の加工業者が講師となって旬の魚介を使った料理を作る。魚市場職員の案内でセリを見学し、流通についても学ぶ。



かまぼこ作りを通して魚や水産業について学ぶ暮らし

小中学校では魚を釣ってかまぼこを作る体験学習が定番。漁師や水産加工業者、研究施設の職員らが講師となり、魚のさばき方、調理法のほか、海洋環境や水産資源の現状について学ぶ。



人々が行き交う駅前で買い物や食事を楽しむ暮らし

駅前には地元商品を扱う店や塩缽の食材を使った食べ物を提供する店が並び、いつも多くの人が行き交う。店と客とのコミュニケーションの中で新たな商品や料理が生まれることも多い。



漁師や農家・林業家の仕事に肌で触れる暮らし

市内や近隣市町の漁師、農家、林業家の協力を得て、漁業・農林業体験をする。近隣市町との連携によって、子どもたちは地域の産業について幅広く知ることができる。



自分で釣ったハゼで正月の雑煮を作る暮らし

正月の雑煮のダシに「焼きハゼ」を使う家庭が多い。秋になると、各家庭ではハゼを焼いて干す光景が見られる。ハゼは自分で釣る人が多く、たくさん釣れたら近所におすそ分けする。



桜味のスイーツを味わう暮らし

市内の菓子店が共同開発した桜味のスイーツが塩竈の新名物となり、市民にとって春を待つ楽しみが一つ増えた。市内でしか買えないため、市外に住む友人に自慢げに送るのも楽しみ。



塩竈のソウルフードを伝える暮らし

塩竈汁や焼きガキ、地元産かまぼこを使った塩竈流おでんなどが市民のソウルフードとして定着した。家庭でも地域の集まりでも食べる機会が多く、大人も子どもも大喜びする。



地元産食材を使った郷土料理が食卓に並び暮らし

日々の食卓には地場産の魚介や野菜などを使った料理が並び、老舗酒蔵の地酒で晩酌をする。ご近所の集まりで「晩のおかず」を持ち寄る機会が多く、人気のおかずが郷土料理として定着した。



勤めながら小商いを始める暮らし

会社に勤めながら、農林漁業や作家活動、加工食品製造など趣味や特技を生かせる分野で「小売り」を始めて副収入を得る。副業が軌道に乗り、会社を辞めて本業にする人も多い。



塩竈で水揚げされた魚介を仲卸市場で選ぶ暮らし

魚市場にはマグロ以外にもさまざまな魚介が揚がる。仲卸市場での買い物の醍醐味は、食材の旬やおいしい食べ方を店の人に聞けること。



地元産かまぼこを使った「塩竈流おでん」を楽しむ暮らし

市内の食品加工業者が知恵を出し合って完成した「塩竈流おでん」が、地元の味として定着した。市内の飲食店で「おでん」を注文すると「塩竈流おでん」が出てくるのが普通。



毎週開かれる市に手作り品を持ち寄る暮らし

地域の広場でフリーマーケット形式の市が毎週開かれ、住民らが手作りの食品や小物などを販売する。物々交換での取引も盛ん。楽器演奏の指導などサービスを売る人もいる。



初デートで本町を歩く暮らし

初めてのデートで本町を歩き、少し背伸びをしてシックなカフェでケーキを食べる。初々しい2人をカフェ店主もまちの人もあたたかく見守っている。次のデートでは浦戸に行く約束をする。



いいことがあると寿司で祝う暮らし

誕生会や結婚記念日など、お祝い事で寿司を食べる家庭が多い。寿司店はお祝い用の華やかな盛り付けを工夫している。地域の祭りでは長い鉄火巻きをみんなで作って楽しむ。



第5章 何度でも訪れたいまち(交流)

まちづくりの方向性

観光交流による賑わいづくり

第1節 地域資源を最大限活用した観光メニューの創出

第2節 塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・
広域連携による交流人口の拡大

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に
取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで
示しています。



施策体系

第1節 地域資源を最大限活用した観光メニューの創出

1 “塩竈でしか味わえない”魅力ある観光メニューの創出

- ①「鹽竈神社と門前町地区」、「バイエリアとマリングート地区」、「市場地区」、「浦戸諸島」の4つの観光拠点を中心に、市内全体が結びつくような塩竈の食の魅力の発信と回遊性向上を推進し、繋がりのある観光メニュー創出を図ります。
- ②観光客のニーズや動向などを踏まえたマーケットインの発想により観光メニュー創出に努めます。
- ③地域事業者や団体と連携し、地域が一体となって、訪れる人々に本市の食や食文化に触れる機会を提供することで、「また来たい」と思われる取組を推進します。（再掲）
- ④近隣市町と連携した広域的な食や食文化の取り組みを推進します。

にぎ
わい

にぎ
わい

2 観光拠点の魅力の磨き上げと回遊性の向上

- ①「鹽竈神社と門前町地区」については、鹽竈神社の門前町として特色のある体験、食事、買い物などさまざまな活動を楽しんでいただける環境を整えます。
- ②「バイエリアとマリングート地区」については、北浜緑地公園や千賀の浦緑地公園の活用やマリングート塩釜の回遊拠点強化に加え、二次交通整備やさまざまな体験コンテンツの創出を行い、松島湾観光と浦戸諸島への玄関口としての魅力向上を図ります。
- ③「市場地区」については、塩釜水産物仲卸市場と魚市場の繋がりがさらに深まるよう、食の体験コンテンツ、イベントの創出や集客向上のためのアクセス改善等の取り組みを推進します。
- ④「浦戸諸島」については、持続可能な担い手づくりの確保を推進しながら、島ならではの食文化の体験や体験コンテンツを充実させ、個人旅行や教育旅行の受入態勢を整えます。
- ⑤観光拠点間の回遊性を高めるため、既存の交通ネットワークの利用促進を図ります。

にぎ
わい

にぎ
わい

にぎ
わい

にぎ
わい

第2節 塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・広域連携による 交流人口の拡大

1 塩竈ブランドの確立

- ①観光振興コンセプト※22である『“海と食と坂”が紡ぐストーリー、歩いてめぐるみなとまち・塩竈』を推進し、塩竈らしい食の魅力発信と「表坂」等に代表される坂のストーリーを発信し、海のイメージにとどまらない塩竈の立体感を表現し、市全体への関心を喚起します。

にぎ
わい

2 戦略的なプロモーションの推進

- ①DX（デジタルトランスフォーメーション）による多様な媒体に対する効率的・効果的な観光情報の発信と内容の充実を図り、交流のある自治体など広域にわたりプロモーション活動を推進します。
- ②動画の活用などによるマスメディア向けPR素材の充実や、鉄道・航空などの交通機関と連携した情報発信に取り組みます。
- ③ふるさと納税やSNS等を効果的に活用し、全国から「応援したい自治体」として選ばれるためのシティプロモーションを推進します。

3 笑顔でのおもてなしとシビックプライド※23の醸成

- ①観光ガイドボランティアなどの関係団体との連携を強化するとともに、よりテーマ性のある有料ガイドや、観光についての企画と事業推進を担う組織づくりなどの人材育成を図ります。
- ②観光案内所や各観光拠点の受入態勢の充実を図ります。

にぎ
わい

4 つながりの強化による発信力の向上

- ①県や関係自治体、観光地域づくり法人（DMO）等との連携により発信力を高め、交流人口と関係人口の創出を図ります。

※22【観光振興コンセプト】塩竈市観光の理念として、令和8年3月に策定した「塩竈市観光振興ビジョン」で設定したもの。

※23【シビックプライド】まちに対する市民の誇り、自分自身が関わってまちを良くしていこうとする思い。

交流の分野では、市民や観光客が家族や仲間たちと年間を通して季節ごとの塩竈の魅力を味わう暮らしが描かれました。



「鹽竈神社の桜を愛でる暮らし」

鹽竈神社で、桜の花を眺めながら歩く。国の天然記念物・シオガマザクラをはじめさまざまな種類の桜があるので花を楽しめる期間が長い。境内の茶店で団子を食べるのも楽しみ。



「食」をテーマにした祭りや近隣市町と交流する暮らし

年に数回、魚市場や仲卸市場、神社周辺などで食をテーマにした祭りが開かれる。近隣市町で採れた野菜や米、果物などの作物や、各地域の名物料理が集まり、広域的な交流の場となる。



海の恵みに感謝して大漁旗を掲げる暮らし

1年に1回、海の恵みに感謝する祭りが開かれる。港や市場には大漁旗が翻り、市民は海産物をお腹いっぱい食べる。地元酒蔵による振る舞い酒を楽しみにしている人も多い。



船で行われるパーティーに参加する暮らし

松島湾を遊覧する船上でパーティーが催される。参加者は景色を眺めつつ、海産物やお酒など、塩竈の味も楽しみながら会話を弾ませる。仕事や恋愛のパートナーに出会う人も多い。



音楽イベントに出演する暮らし

「GAMA ROCK FES」は秋の音楽イベントとして定着した。ほかにも駅前広場や市内のホールなどで音楽イベントが毎月のように開催され、多くの市民が出演者や観客として楽しむ。



門前町の風情を感じる暮らし

鹽竈神社周辺では古い建物が店舗などとして活用され、門前町の風情がただよまじ並みが形成されている。御釜神社や道端のベンチには談笑する人の姿が見られる。



季節の地酒と肴を 楽しむ暮らし

市内の酒蔵が季節ごとに発売する酒は塩竈の風物詩のひとつとなり、毎年、辛党の市民が待ちわびる。飲食店では、地元の食材を使い、地酒に合わせた季節の料理を提供している。



初詣やお祭りの日に 屋台で食べ歩く暮らし

大晦日・元日や、神社の祭りの日には、裏坂周辺に並ぶ食べ物や遊戯などの屋台でお祝い・お祭り気分を満喫。一帯は親子連れや仲間と集まった小中高生らで賑わっている。



地域の魅力を撮影して 発信する暮らし

市内在住のカメラマンが地域の祭りや名所、特産品、話題の料理やスイーツなどを撮影し、市内外に発信している。地域の魅力を撮影した写真のコンテストも毎年開催されている。



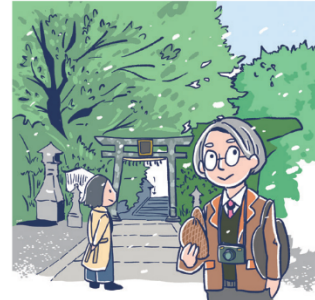
海で遊ぶ暮らし

市内外からたくさんの人が訪れ、釣り、海水浴、シーカヤックやSUP、海辺でのバーベキューなど、海での遊びを楽しむ。海辺が活性化するにつれ、多くの雇用も生まれた。



子どもたちが 塩竈の魅力を 人に伝える暮らし

塩竈の歴史・文化に関心を持って勉強会などで学ぶ市民が多く、子どもたちも学校や地域でまちの魅力を知り人に伝える学習活動をしている。観光ガイドのボランティアに参加する中高生が多い。



松尾芭蕉の足跡をたどる 暮らし

松尾芭蕉が歩いた道を散策するウォーキングツアーに参加する。ガイドによる解説を聞きながら歩くことで、多賀城・松島など周辺地域との文化的つながりを感じられる。



第6章 日常に彩りがあるまち（文化）

まちづくりの方向性

生涯にわたって学びあえる風土づくり

第1節 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組
の充実

第2節 生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開

第3節 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に
取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで
示しています。



施策体系

第1節 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実

1 塩竈に息づく歴史・文化の保存

- ①国指定重要文化財の鹽竈神社や特別名勝松島をはじめとした貴重な文化財を市民の共有財産として守ります。
- ②市内に残る貴重な歴史的建造物の保存や歴史資料の収集に努め、まちづくりに生かします。
- ③地域の文化や芸能を継承する団体を支援するとともに、さまざまな活動で連携を図ります。

すみ
よさ

にぎ
わい

2 歴史・文化の活用によるシビックプライドの醸成

- ①講演会や講座等の充実を図り、幅広い年代の市民が、塩竈の人、歴史・文化、自然について学ぶ機会を提供します。
- ②タイムシップ塩竈やWeb博物館「文化の港シオーモ」の充実を図るとともに、郷土愛を育む「塩竈学」の取組を推進し、本市の歴史・文化の魅力を市内外に積極的に発信します。
- ③文化財、歴史的建造物、食文化などの魅力を生かした交流を推進します。

すみ
よさ

にぎ
わい

第2節 生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開

1 生涯にわたって楽しく学べる環境づくり

- ①一人一人の主体的な学びを大切にしながら、多様な方式やさまざまなメニューによる学習機会の提供に努めます。
- ②学びから学び合いへとつながるよう、学習団体の育成とネットワークづくりを推進しながら、学びの成果を発揮できる環境をつくります。
- ③だれでも気軽に生涯学習活動に参加できるよう、生涯学習施設の環境整備に努めます。

すみ
よさ

2 生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくり

- ①生涯にわたって健康な生活を送れるよう、幼児期・少年期からさまざまなスポーツを体験できる機会や、一人一人のニーズに沿ったスポーツに親しめる機会を提供します。
- ②スポーツ施設の環境整備を図るとともに、効率的・効果的な管理運営に努めます。

すみ
よさ

3 生きがい創出と地域の活力向上

- ①生涯学習やスポーツを通じたボランティア育成などにより、市民の生きがい創出を図り、地域の活力向上に努めます。

第3節 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

1 創造性豊かな人材育成への支援

- ①市民交流センターや杉村惇美術館などの文化施設を中心に、子どもの頃から良質な文化・芸術に触れる機会を提供することで、創造性豊かな人材の育成に努めます。
- ②地域で学び続けるために、社会教育関係団体、自主サークルなどの育成・支援を図ります。

よろ
こび

2 スポーツを通じた人材育成への支援

- ①プロスポーツチームとの連携強化や地域のスポーツ団体への支援の充実により、スポーツを通じた人材育成に努めます。

よろ
こび

3 文化の創造や発信の促進

- ①一流のアーティスト・アスリートに触れる機会を提供するとともに、市民主体の取組を支援し、文化の創造につなげます。
- ②市民交流センター、生涯学習センター、杉村惇美術館などの多彩な取組を市内外に広く発信します。

文化の分野では、市民が日々の生活の中で、豊かな歴史や文化に親しみ、芸術などの創造的な活動に関わり、表現し合う暮らしが描かれました。



鹽竈神社に見守られながら、 鹽竈神社を見守る暮らし

多くの市民が常に鹽竈神社の加護を感じ、初詣、結婚、七五三、合格祈願などの節目には挨拶に訪れる。神社の営みや環境を維持するのも市民の力によるところが大きい。



点在する「新旧ランドマーク」 に親しむ暮らし

寺社、碑、老舗などの歴史的な建造物と、番館やエスプなどの建物とが調和したまち並みは、古いものと新しいものを柔軟に取り入れるこのまちの文化を象徴している。



退職後、学校に通って 学び直す暮らし

地域の小中学校で、教養を深めたい人や資格取得を目指す大人のための講座が開かれ、多くの中高年が通う。子どもたちと一緒に学び、交流できる講座もある。



文化財を舞台に 文化を紡ぐ暮らし

勝画楼、旧えびや旅館、杉村惇美術館など、地域の歴史を物語る建築物は市民の手によって大切に保存されている。人々が学び、交流する場として活用され、新たな文化が紡がれている。



街角のライブパフォーマンス に足を止める暮らし

駅前広場や公園などでは歌や楽器演奏、大道芸などのパフォーマンスが日常的に繰り広げられ、街に笑顔と活気をもたらす。塩竈のストリートは多くの有名アーティストを輩出した。



土地の文化を アートで表現する暮らし

地域に根付いてきた生業や暮らしを掘り下げ、絵画作品や楽曲で表現し続けるアーティストがいる。作品は地域住民らにとって、土地の文化を捉え直す機会となる。



古今東西のアート作品に触れる暮らし

美術館などでは国内外の有名作家や地元の若手など、さまざまな芸術家の作品に触れることができる。遊ホールでは演劇や人形劇、神楽などが定期的に上演され、舞台アートの世界を楽しめる。



趣味・特技を発表し合う暮らし

市の芸術文化祭や町内会単位の展覧会、発表会など、活動の成果を発表する場が多くある。人に見られるという刺激は、活動続ける上での意欲につながる。



ストリートでダンスの技を磨き合う暮らし

市内の路上ではさまざまなレベルのダンサーがパフォーマンスや練習をしている姿が見られる。互いに技を見せ合ったり、経験者が初心者にアドバイスしたりするなど、ダンサー同士の交流も盛ん。



図書館で読書会に参加する暮らし

図書館で司書の助言を受けながらさまざまな書物に触れ、思考を深める。時々開催される読書会に参加すると、他者の視点を感じたり新たな分野の面白さに気づいたり刺激的な経験ができる。



自分の作品がまちなかに展示される暮らし

市内で活動するアーティストやアートを学ぶ学生の作品が、公共施設、公園、道路などに展示されている。ところどころに有名作家の作品も置かれ、まち全体が美術館のようになった。



活気に満ちあふれた塩竈の様子を後世に伝える暮らし

江戸時代に仙台藩の庇護を受け、門前町や花街、流通拠点として賑わった歴史は郷土史家らによって詳らかにされた。また、書物や芸術作品として残され、地域住民らにも知られるようになった。



神社や公園でヨガや太極拳を楽しむ暮らし

商店街にある神社の境内や住宅地の公園で太極拳の稽古をする。年齢も性別も体格もさまざまな参加者が、ゆったりとした動きの中で自分の心身と向き合う。別の日にはヨガ愛好者のグループが活動している。



近所のミニシアターで気軽に名画を楽しむ暮らし

小規模な映画館が点在し、気軽に映画を楽しむ。名画座、自主制作映画専門、ドキュメンタリー専門など、館によってコンセプトが異なり、大手シアターでは扱われない作品が上映されることが多い。



第7章 みんなが主役になれるまち（協働）

まちづくりの方向性

さまざまな個性がつながり、 役割を発揮できる環境づくり

第1節 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実

第2節 大学や企業等との交流・連携・共創と
多様化する社会への理解促進

第3節 効果的・効率的で透明性の高い行政経営

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実

1 まちづくりに関わりたくなる環境づくり

- ①まちづくり活動を始めたいという市民や市民活動に取り組んでいる団体に向けて、多様な学習機会を提供します。
- ②市民活動への関心や参加意識を高めるため、幅広い分野の情報収集とさまざまな手段や機会を活用した情報提供に努めます。

すみ
よさ

2 市民活動団体との協働・連携の推進

- ①政策形成過程への市民活動団体の参画を促進することで、協働のまちづくりを進め、パートナーシップの強化を図ります。
- ②町内会をはじめとした市民活動団体同士が交流する機会の創出や、連携した取組への支援の充実により、市民活動団体の横のつながりを深めます。

にぎ
わい

3 相談・支援体制の充実と気軽に集えて活動できる環境づくり

- ①協働による地域課題の解決に向けて、良好なコミュニティの形成を推進するとともに、相談・支援体制の充実を図ります。
- ②自主的な活動や世代間が交流できる場の提供を通じて、気軽に集えて活動できる環境を整えます。

第2節 大学や企業等との交流・連携・共創と多様化する社会への理解促進

1 協働・共創によるまちづくり

- ①市民、NPO、企業、金融機関など、多様な主体が参画した協働・共創によるまちづくりを推進します。
- ②まちの活性化や地域課題の解決に向けて、大学、企業や**プロスポーツ団体**などとの包括的な連携を強化し、幅広い知見や技術などを積極的にまちづくりに取り入れます。

にぎ
わい

にぎ
わい

2 性別に関わらずみんなが等しく活躍できる社会づくり

- ①ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に向けた取組を推進するため、家族で仕事と家事・育児・介護など、家庭内の役割を協働して担えるよう、意識啓発と学習機会の提供に努めます。
- ②ドメスティックバイオレンス（DV）の防止に向けて、あらゆる機会を通じて啓発を行うとともに、被害者の自立に向けた支援の充実に努めます。
- ③性別に関わらず、やりがいをもって働ける就労環境づくりに向け、企業などと連携して取り組みます。

やり
がい

3 多文化共生※24社会への理解促進

- ①国際理解や国際交流を促進するため、関係機関・団体との連携強化と支援の充実に努めます。
- ②市内に住む外国人が地域の一員として安心して暮らせるよう、多文化共生社会への理解促進に努めます。

※24【多文化共生】国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

第3節 効果的・効率的で透明性の高い行政経営

1 効果的な情報発信と情報共有

- ① 市政だよりやホームページの内容充実を図るとともに、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用など、時代のニーズに応じた効果的な情報発信を行います。
- ② 市民とのパートナーシップを深めるため、だれもが自由に市政運営に対して意見を言える機会の充実に努め、双方向の情報共有を推進します。

すみ
よさ

すみ
よさ

2 きめ細やかで持続可能な行政経営

- ① 計画的な財政運営や適正な定員管理、アウトソーシング^{※25}やデジタル化などの行財政改革を推進し、持続可能な行政経営に努めます。
- ② 情報公開の充実により、市民から信頼される透明性の高い行政運営に努めます。
- ③ 市民目線に立ち、地域課題等に即時に対応できるよう、職員の育成に努めるとともに、組織力の強化を図ります。
- ④ 分散している行政機能の集約に向けて、新たな庁舎整備の方向性を検討します。

3 広域的な協力・連携による行政サービスの向上

- ① 周辺自治体との広域的な協力・連携により、共通課題の解決や行政サービスの向上に努めます。
- ② 東日本大震災において支援いただいた自治体や協定を締結している自治体との交流を深め、今後のまちづくりに生かします。

※25 【アウトソーシング】人材やサービスを外部の専門業者に委託すること。PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）の手法の一つ。

協働の分野では、みんなで一緒に地域活動に参加する姿や異なる文化に触れる姿、まちの未来を語り合う姿など、さまざまな世代が協働でまちづくりに関わる暮らしが描かれました。



地域誌・ミニコミ紙で 地域の情報を 得られる暮らし

地域の個人や団体が発行する小メディアから、地域の情報を得る。投稿など紙面（誌面）上への読者参加も活発で、地域メディアが文化交流の場となっている。



みんなが休む日がある 暮らし

地域の商店がすべて休みの日があり、だれもがのんびり暮らす。地域の祭りやイベントは休みの日に開催され、商店主や地域の子もたちが参加して賑やかになる。



コミュニティFMで 地域情報を得る暮らし

コミュニティFM では日々、生活に役立つ地域情報が流れている。投稿やリクエストを通じたラジオ上での交流も盛ん。災害時の情報源としても市民の信頼が厚い。インターネット経由で聴く人も多い。



町内会や 小さなコミュニティに 参加する暮らし

市内のどの地区でも住民どうしの交流が盛ん。地域活動においては子どもたち、親世代、高齢者がそれぞれの役割を果たし、和やかで暮らしやすい地域づくりに貢献している。



バスで行く 「清掃ツアー」に 参加する暮らし

市内の観光スポットや公園などをバスで巡って清掃するボランティア活動が盛ん。実際にはゴミはあまりないが、参加者にとっては健康増進だけでなく地域の魅力の再発見につながる。



まちの未来を語り合う 暮らし

高齢者と若者が一緒になって理想のまちづくりを語り合う場がある。だれもが「地域の子どもたちにどんな塩を残すのか」を真剣に考え、意見を交わす。議論の内容は市政に生かされる。



地域のサークル活動で 生きがいを感じる暮らし

各町内会では俳句、写真、植物、ソフトボールなど、さまざまなサークルが活発に活動していて、住民の生きがいになるとともに、地域内外の住民同士の交流の場になっている。



子どもたちが外国人と 交流する暮らし

子どもたちにとって言語や生活様式の異なる人が身近にいることは当たり前のこととなった。日常的な交流を通し、互いの文化を尊重して受け入れる姿勢が自然に身についている。



地区の新年会や忘年会で 子どもたちと歌う暮らし

新年会、忘年会、敬老会など、町内会のイベントで住民らの交流が深まっている。毎回、地域の子どもの合唱は大人たちの一番の楽しみ。大人たちも一緒になって歌う。



ムスリムの友人と レストランで 食事する暮らし

市内には多くの外国人が住んでいるため、多くの飲食店がさまざまな宗教や食文化に対応したメニューを用意している。アレルギーのある人でも食べられる料理を提供する店も多い。



オシャレして 街に出かける暮らし

年齢を問わずおしゃれを楽しむ人が多く、みんな自信に満ちた姿でカッコよく歩く。学生の間にはデートの服装を祖母に選んでもらうとうまくいくという都市伝説が生まれた。



第8章 自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま（浦戸諸島）

まちづくりの方向性

人々が住まい・集える持続可能な島づくり

第1節 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実

第2節 浦戸産品（海産物・農産物）の高付加価値化や
担い手育成による産業の振興

第3節 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

※しおがま未来創生プロジェクトとして、より重点的に取り組む施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。



施策体系

第1節 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実

1 市営汽船の利便性確保と経営安定化

- ① 島民の利用ニーズを適正に踏まえた快適な移動環境の提供に努め、市営汽船の利用促進を図ります。
- ② 運航体制の最適化とプロモーション活動に力点を置いた営業力の強化に努め、持続可能な航路運営を図ります。
- ③ 浦戸の基幹産業である海産物の輸送支援の継続や、観光客が利用しやすい環境の整備に努め、浦戸の産業と交流を支えます。

すみ
よさ

2 安定的な医療・福祉サービスの提供

- ① これからも安心して浦戸で暮らしていけるよう、年間を通じた定期的な診療体制の維持を図るとともに、**新たな診療体制を検討します。**
- ② 浦戸地区に安定した介護サービスの提供を確保するため、地域包括支援センター^{※26}による相談支援体制の充実と**介護サービス事業者が参入しやすい環境整備に取り組めます。**
- ③ 浦戸地区の介護予防の推進に向けて、関係団体への支援に取り組めます。

すみ
よさ

すみ
よさ

3 移住者の受入環境づくり

- ① 浦戸への移住者の受入環境の整備に向けて、国・県などの関係機関と連携を図るとともに、空き家の有効活用に努めます。

にぎ
わい

4 特色ある教育の充実

- ① 小中併設校である浦戸小中学校においては、島民の協力を得ながら、浦戸の恵まれた自然環境や文化、伝統を生かし、教育の推進や子どもたちの活躍の場の創出に努めます。

よろ
こび

5 先端技術の活用による島生活の充実

- ① 島民の生活環境の充実に向けて、企業などと連携し、先端技術を活用した買い物支援や移動支援などについて検討を進めます。

すみ
よさ

※26 【地域包括支援センター】市町村が設置主体となり、地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な支援などを行い、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする、地域包括ケア実現に向けた中核的な機関。

第2節 浦戸産品（海産物・農産物）の高付加価値化や 担い手育成による産業の振興

1 浦戸のブランド化促進と6次産業化※支援

- ①浦戸の海産物・農産物について、安全性や生産性のさらなる向上に努めながら、浦戸の自然やりや歴史、島の人々によって育まれてきた背景を合わせて広く発信するなど、関係機関と連携がいして「浦戸ブランド」の磨き上げを行います。
- ②浦戸の海産物や農産物の高付加価値化に向けて、既存団体の活動を支援しながら、さらなる商品開発の促進や販路開拓の支援により、浦戸特産物の6次産業化※²⁷を推進します。

やり
がい

やり
がい

2 浦戸産業の魅力発信と担い手の確保・育成

- ①島の豊かな自然のもとで充実して働ける環境や、浦戸の海産物・農産物の価値を広く発信し、産業の担い手確保に努めます。
- ②持続可能な浦戸の産業づくりに向けて、島民と連携を深めながら、地域おこし協力隊※²⁸をはじめとした担い手の受入体制づくりに取り組みます。
- ③新たな漁業従事者等の招致育成や島内外の人々の交流活動が促進できるよう、ステイ・ステーションなど拠点となる施設の環境整備と効果的な運営に努めます。

やり
がい

やり
がい

※27 【6次産業化】農林水産物を収穫・漁獲（第1次産業）するだけでなく、加工（第2次産業）し、流通・販売（第3次産業）まで手がけること。「6次産業」の6は、「1次産業の1」×「2次産業の2」×「3次産業の3」のかけ算の6を意味している。

※28 【地域おこし協力隊】都市地域から人口減少や高齢化等が進む地方に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を促進して、地域力の継承向上を図る取組のこと。

第3節 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

1 個性ある地域資源をつなぎ合わせた交流活動の推進

- ①浦戸の魅力である自然景観や歴史的資源の保全に努め、島民とともに各島が持つ資源の掘り起こしを行い、浦戸諸島一体での交流活動を推進します。

にぎ
わい

2 浦戸ならではの観光メニューの創出

- ①島民や各種団体、事業者等と連携し、訪れる人々に浦戸ならではの癒しや楽しさを与えられる観光メニューを創出します。
- ②浦戸に訪れる人々が快適に過ごせるよう、環境整備をはじめとした受入態勢づくりに努めます。
- ③浦戸の自然や産業を体験できる場として、防災集団移転跡地の有効活用を図り、交流人口の拡大に努めます。

にぎ
わい

にぎ
わい

3 時代のニーズに沿った受入環境づくり

- ①持続可能な担い手づくりの確保を推進しながら、島ならではの食文化の体験や体験コンテンツを充実させ、個人旅行や教育旅行の受入態勢を整えます。（再掲）
- ②浦戸の魅力である自然景観などを生かし、働きながら非日常の癒しを求められる場の構築に向けて、受入環境の整備に取り組みます。

にぎ
わい

にぎ
わい

浦戸諸島の分野では、浦戸ならではの自然や文化に抱かれた、島の人々の日々の暮らしや、島を訪れる人々がその恵みを楽しんでいる暮らしが描かれました。



船が身近にある暮らし

浦戸や松島、宮戸島などへの移動手段として、日常的に船を利用する。松島湾には多くの釣り船が浮かぶ。小型船のシェアリングが盛んになり、自分で操船する人も増えた。



浦戸に住んで 漁師を目指す暮らし

漁師を志す人が浦戸に長期滞在しながら漁師の指導を受け、技術の習得と独立を目指す。その活動を支援するしくみがあり、地元漁師も後継者育成のために協力を惜しまない。



浦戸の菜の花を 活かす暮らし

春の浦戸には菜の花や水仙などが咲きほこる。島のカフェでは菜の花のハチミツを使ったスイーツや菜の花の漬物を味わえる。春に島の民宿に泊まると食事は菜の花づくし。



浦戸で働きながら 余暇を楽しむ暮らし

浦戸に宿泊しながらパソコンで仕事。仲間との打ち合わせや営業先との交渉もオンラインでできる。仙台や東京からワーケーションで来ている人も多い。



浦戸で白菜を育てる 暮らし

浦戸の住民が浦戸産の種から育てる白菜は「浦戸白菜」として仙台白菜とは別の新たなブランドになった。市内の子どもたちが畑に通って栽培、採種を体験し、収穫した白菜は給食で味わう。



岸壁でのんびり 釣りをしながら 海を眺める暮らし

天気の良い日は岸壁で釣りをする人の姿が多い。釣った魚は料理して食べる。釣れなくても、穏やかな海をのんびり眺めているだけで最高のリフレッシュになる。



浦戸で休日過ごす 暮らし

休日は浦戸の島を訪れ、ツバキの遊歩道や菜の花畑を歩き、丘の上から海を眺める。お昼は島の民宿や食堂で海苔や牡蠣やシラウオなどを使った料理を食べる。宿泊して島を堪能する人も多い。



浦戸で農作物を 収穫できる暮らし

島に農地を借りて好きな野菜を植え、週末には草取りや水やりに行く。収穫の楽しみを味わえるだけでなく、屋外での作業で体力がついた。丁寧に管理された松林ではマツタケも採れる。



牡蠣殻を用いた 商品を生産する暮らし

牡蠣殻を活用して建築資材や土壌改良剤を作る事業が地場産業として発展し、雇用を生んだ。市内の農地では牡蠣殻の土壌改良剤が普及し、おいしい野菜が採れるようになった。

